

## 第4回協働推進委員会記録

日時	平成21年2月26日(木) 18:30~21:30
会場	豊明市役所本館3階政策審議室
出席者	延藤安弘、石川礼子、遠藤隆之、木下三枝子、小池田忠、酒井克俊、都築和男、平松鋼一、三島知斗世、三和尚子、矢澤久子 豊明市 : 市民協働課長、市民協働課長補佐 市民活動振興担当係長、市民活動推進係職員

### 議 事

#### 1. 委員長あいさつ

延藤委員長が開会を宣した。

続いて、前回について振り返りがされた。

#### 2. 報告事項

##### (1) NPO フェスタについて

資料2に基づき、NPO 連絡協議会会長三和委員より報告。つづいて、延藤委員長より当日の印象についての報告がなされた。

##### 《以下委員の質問、発言》

他市ではNPO 団体間の交流でどのようなことを行っているのか。

\* 東海市では、先日市民活動センターにおいて交流会が行われた

参加者の名刺交換ののち、ワークショップが行われ、団体間で今困っていることと手伝えることのマッチングを図った。

何の目的で実施しているのか。

\* 団体同士、団体と市民との交流を目的としている。

#### 3. 協議事項

##### (1) 協働モデル事業について

資料3に基づき、事務局より協働モデル事業の実施状況及び協働モデル事業懇談会の報告がなされた。その後、協働も出る事業懇談会に立会った委員からの報告がなされた。

#### 《以下立会い委員からの報告・感想》

- ・ 今回の懇談会では、継続性を視野に入れていろいろ意見を言わせていただいた。
- ・ 消防署の普通救命救急講習会のボランティアについて、1年目だからうまくいったのだと考える。今後企業その他いろいろな場所での開催を考えると、ボランティアの手配などの事務がとても大変である。ボランティアを手配するコーディネート役に対して委託のような形も視野にいたほうがよいのではないか。
- ・ 自主グループによる子育て支援事業について、活動している人が実質6名という少なさが心配である。(矢澤)
- ・ 今回はじめて縦割り行政が、お互いの事業を聞きあう機会となったことはとてもよかったと思う。まだ始まったばかりで、職員の中に協働に対して戸惑いがあるのではないか。
- ・ 自主防災について、自主防災会長と町内会長はイコールであることが多い。そのような地縁型団体は、だれが長になっても継続できるようにシステム化していくことが必要である。(小池田)
- ・ 今回の懇談会で、ボランティアや市民参加が行われていることがわかったが、市民が主体的にやるというところまではいっていないということが分かった。事業には、Plan、Do、Seeがあるが、Doが決まってから手伝ってくださいねという感じである。事業の計画段階から丁寧に話し合いが行われるとよい。
- ・ 協働をお金に換算することで、協働により市の事業経費の削減が行われていることが分かったので、次は市民が主体的に行おうとしている事業に予算を付けていくというプラスの発想も必要ではないか。一宮市では、市の個人市民税の1%を18歳以上の人口で割り戻した金額を1人あたりの金額とし、得票数に応じて市民活動団体へ助成をする「市民が選ぶ市民活動支援制度」を行っている。
- ・ 地域で、市民がどれくらい動いているのかを把握しようとする必要ではないか。(三島)
- ・ カルテに記入していない欄がとても多かったのが気になった。もう少しきちんと埋めてほしい。
- ・ 垣根がまだまだ高い部署もあるが、徐々に横のつながりを深めていくために、継続的に実施してほしい。(酒井)
- ・ カルテを埋めていないということは、職員に気がないということだ。
- ・ 職員は人件費がコストだと思っていないことが多い。(平松)

#### 《その他、委員の発言》

- ・ 行政は自分たちのやったことを褒めあっているだけだ。自分が携わっている児童館のボランティアや登下校の見守りについてこのカルテに書かれていたが、市の担当者が現場を見に来たことは一度もない。もっと現場に足を運ぶべきだ。
- ・ 資料3について、「ボランティアの活用」という表現はおかしいのではないか。市民は活用されているつもりはない。あくまで自主的に活動しているものだ。  
行政には、知らず知らずのうちに、ボランティアを都合よく利用してしまっているのかもしれ

ない。

- ・ 市の協力者を募っていることが協働であるという発想があるのではないか。
- ・ 市の目に見えないところで活動が広がっており、そのような地域が主体的に活動していくことが、市民の幸せにどうつながっていくのかの分析が必要。
- ・ 市民が地域の問題に取り組む自主的な活動を、どう評価し、どうサポートしていくか検討していく必要がある。

委員長より下記のとおりまとめられた。

#### 協働事業をすすめるのためのポイント

##### 3つの協働がある

市がやっていることに市民がパートナーとして参加する協働

市民が自主的に日々ボランティア活動をしている、それを市がサポートしていく協働

計画し、行動し、評価するをともに行う協働

- ・ 協働の一步は確実に踏み出している。
- ・ カルテがあまり書かれていないのは、担当者が気がないという点と書きにくいという点がある。さらなる改良が求められる。
- ・ 縦割り行政に、横割り 行政内協働の必要性に気づきはじめて一步だった。
- ・ ボランティアと事業を行っていくためには、組織として継続できるシステムの確立が求められる。
- ・ 協働によってコストダウンが図れることがカルテで見えてきた。

次には、市の財政全体で考え、協働によって予算を減らすだけでなく、浮いた分、市民の自主的に問題を解決する活動、地域活動についてサポートしていくための予算化をすすめるというプラスの発想も必要。

#### (2)次年度の委員会の日程等について

資料4に基づき、事務局より次年度委員会の進め方についての説明がなされた。

協働推進委員会の任期は19年度と20年度であり、今回をもって任期満了となる。基本的に留任をお願いしたいが、公募委員については、もう一度公募しなおすというのが市の方針なので、ご理解いただき、また協力していただきたい。

#### 4. ワークショップ

3 グループに分かれてワークショップ「使命感だけでは続かない どうオモシロクするか」  
討論の内容は別紙のとおり。

#### 5. 今後のスケジュール

新年度第1回委員会 6月4日(木) 18:30~